拓水

TAKUSUI
No. 627

1
January. 2009

発行　㈶兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

但州丸帰港式（12月7日　神戸港第3突堤）

新年のご挨拶

NEWS
「ひょうご海の子」作品受賞者決定

Report
JF南あわじワカメ養殖の体験学習

年頭挨拶

年頭のご挨拶

兵庫県漁業協同組合連合会
代表理事会長
小松　司

新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり、県下ＪＦ及び組合員の皆様ならびにＪＦグループの皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

米国の金融不安に端を発した「百年に一度」と言われる世界的な経済危機は、株価の暴落、失業等、日本経済へも大きな影響を及ぼしました。一方、金融不安を契機に急落した原油価格の暴騰は、日本の水産業界を激震させましたが、全国漁民大会や一斉休漁、漁業者の政治力結集運動等により、省燃油操業実証事業では630億円等の大型補正予算が確保され、今後、これらを有効活用していく方策の検討がなされている所であります。

本県漁業に目を転じますと、昨年は、まさに激動の一年間でありました。年明け早々に播磨灘を中心に発生したノリの色落ち、貨物船衝突による重油流出事故、さらに前述の原油高の影響等により、休漁や廃業に追い込まれる漁業者が続出するなど、漁村の崩壊さえも危惧される極めて深刻な状況となりました。

また、本会もその影響から、大変厳しい経営状況となりましたが、会員をはじめ、関係団体のご協力により、現在、５カ年中期経営計画は順調に推移しております。特に、昨年10月１日に子会社として設立しました㈱ひょうごぎょれん販売は、全国へ「兵庫のり」の知名度を高め、消費拡大するための起爆剤とすべく役職員が団結して運営に取り組んで参る所存です。

さらに、漁業を取り巻く情勢は極めて厳しい状況にありますが、我々漁業者の生産の場である日本海・瀬戸内海を、自らが「海の防人」として豊かな自然環境を守り、国民の食生活の基礎となる安全・安心な水産物を供給することは勿論ですが、農業・林業・水産業に係わる行政・関係団体が一体となって、それぞれが持つ多面的機能をより効果的に発揮していく取り組みも必要であります。

本会におきましては、豊穣の海を取り戻すため、新法整備の要請活動や海底耕耘、漁民の森づくり等に取り組んで来ましたが、今後は、魚介類を育み、漁業を支える水すべてを資源と位置づける「漁業用水」の概念の構築及び関係海域への普及運動を展開していきたいと考えています。

なお、昨年、内閣府がすすめる規制改革会議は、ＩＴＱ制度の早期導入や漁業権の見直し等、民間資本の自由な参入等が盛り込まれた第３次答申を公表しましが、歴史ある漁業秩序を破壊に導くものであるとの認識のもと、現在、全国の系統組織あげて断固反論すべくＪＦ全漁連を中心に運動を展開しているところであります。

日本海ではカニ漁、瀬戸内海ではノリやカキ養殖業が最盛期を迎えておりますが、各浜が活気と希望に満ち溢れ、魅力ある産業として“兵庫の漁業”を次代へ継承していくためにも、ＪＦグループが意思統一を図り、総力を結集する事が不可欠であります。

本会におきましても、その存在意義をしっかり見据え、会員・所属員の方々との信頼関係をもとに、役職員一致団結して事業に取り組む所存であります。

最後になりましたが、 県下漁業者はもとより、会員各位ならびに県ご当局・水産系統団体のますますのご繁栄とご健勝を祈念申し上げ、新年の挨拶と致します。

～新時代を拓く兵庫をめざす～

兵庫県知事
井戸敏三

新年あけましておめでとうございます。

100年に１度ともいわれる経済危機のなか、世界は米国１極体制から多極体制への模索を始めました。
国内では、分権改革の進展とともに、新たな自治の時代の幕を開けねばなりません。

内外で新しい秩序を求めて動き始めている今年は、まさしく地方の力でわが国の仕組みを変える好機ではないでしょうか。

この大転換期こそ、新時代の構図をしっかりと描き、その実現を図るために全力を尽くす時期です。

まず、県民生活の安定のため、足下の景気回復を最優先に、実効ある経済雇用対策を推進します。

第２に、新しい行革プランのもと、行財政構造改革を軌道に乗せ、未来への基盤を確立します。

第３に、少子高齢偏在の人口減少社会の課題に対処するため、元気、生活、交流、家族と地域の４つの視点を大切に、県民の皆さんと新しい兵庫をめざすビジョンを再構築します。

第４に、地域資源や環境、多彩な風土などを生かし、未来の姿を見据え、着実に１歩１歩、元気で安全安心な兵庫をつくります。

大震災からの創造的復興を成し遂げた兵庫だけに、現下の厳しい時代こそ明日を切り拓く基礎固め、力を蓄える時期としてとらえて、兵庫の力で新時代に取り組んでいきましょう。

今こそ、参画と協働の原点を踏まえ、みんなの力を結集して、県民だれもが生活の豊かさと生きがいを実感できる新しい兵庫づくりをめざしましょう。

年頭挨拶

兵庫県信用漁業協同組合連合会
代表理事会長
秋武　宏

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、会員並びに組合員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年の本県漁業情勢は、西播海域での早期のノリ色落ち被害に加え、明石海峡で発生した貨物船等衝突事故による油流出によって、ノリ養殖のみならず、最盛期を迎えつつあった船びき網漁業等の漁船漁業においても甚大な被害を受けたことで、近年に例を見ない不漁に見舞われました。

水産業界では、昨年夏の「漁業経営危機突破・全国漁民大会」の開催や全国20万隻の漁船が一斉休業に踏み切るなど、国民に浜の窮状を訴えたことで、燃油高に苦しむ水産業者に対する国の支援策が講じられました。

信漁連におきましては、係る事態に対し、漁業者を金融面で支援するため、行政の協力のもと、継続的に緊急資金融資に取り組むとともに、日本政策金融公庫資金の取り扱いについても対応してまいりました。

さらに、漁家経営悪化により、過去の設備投資に伴う負債が重荷となっている漁業者に対しては、引き続き健全経営に向けて、経営指導にあたっていく所存です。

また、昨年においては、「信用事業安定運営責任体制（あんしん体制）」に、新たな運営形態として明確化された広域信漁連の検討についても、組織の強化に向けた実務者レベルの本格的な協議を進めてまいりました。

漁業環境が厳しさを増す中、本会が今後とも地域に密着した漁業金融機能を提供し、利用者から信頼され、浜の暮らしに不可欠な金融機関であるために、役職員一丸となって努力してまいりますので、一層のご支援・ご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本県水産業のさらなる発展と皆様方のご健康とご多幸を心より祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶

兵庫県漁業共済組合
組合長理事
吉岡　修一

県下漁業関係者の皆様、新年明けましておめでとうございます。年頭に当たり謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

さて、昨年のサブプライムローン問題に端を発した金融危機は、米国の大手投資銀行や証券会社であるリーマン・ブラザーズの経営破綻などの世界的な金融不安を引き起こしました。この余波を受け、我が国においても日経平均株価が一時7,000円を割り込むなど株価が大暴落し、某国内最大手企業においても８年ぶりに営業利益が１兆円を割り込むなど、世界経済はもとより日本経済は今なお混沌としております。

本県水産業界をみましても、とくに内海地区の基幹漁業であるノリ養殖漁業が依然先行き不透明な様相を呈しており、但馬、内海ともに燃油価格の異常の度を越した高騰が大きく漁家経営の逼迫に拍車を加えるなど、近年になく非常に厳しい状況に陥っております。

このような中で、共済事業の果たすべき役割は非常に大きなものがあると自負しておりますが、とくに昨年度は、特定養殖共済にかかる補償力の大幅な引き上げについて積極的な推進を行ってまいりました結果、多くの経営体において最高の補償水準或いはそれに近い水準での加入に至りましたことは誠にもって喜ばしい限りであります。当然のことながらこの背景には、漁業者自身の経営危機意識の向上はもとより、20年度より新たに兵庫県の掛金補助が加わりましたことや、従前からの市町補助並びに㈶兵庫県水産振興基金の掛金補助率が引き上げられたことも大きな要因であり、ここに兵庫県知事様をはじめ多くの関係市町・漁業関係者の皆様に対し厚く御礼を申し上げる次第でございます。

また、昨年４月にスタートしました新しい漁業経営安定対策事業（積立ぷらす）については、それまでＪＦ兵庫漁連内に設置されていました推進室が本組合に移管されるとともに、兵庫県漁業経営安定対策協議会の事務局団体として積極的な加入推進に努めておりますので、どうか漁業者の皆様にはこれの積極的な活用もお願い申し上げます。

最後に、本年の豊漁と漁業操業の安全並びに本県水産業のますますの発展と皆様方のご健勝ご多幸を心よりご祈念申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

新しい年を迎えて

兵庫県農政環境部農林水産局
水産課長
山村　雅雄

あけましておめでとうございます。

皆様には、清々しく新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

新しい年が希望に満ちた１年となりますよう、心からご祈念申し上げます。

顧みますと、昨年は本県の水産業界にとって大変厳しい１年であったと思います。

操業の面では、色落ち被害や価格の低迷から養殖ノリの生産量、生産金額が落ち込み、さらに３月５日に発生した明石海峡船舶事故では、流出油によりノリ養殖をはじめ船びき網漁業などに甚大な被害を及ぼしました。そして、平成17年頃からじりじり値上がりしていた燃油価格は、今夏には最高値を記録し、漁業の経営に大きな負担となりました。また、社会面では、漁協の業務に関連した各種法令の改正が行われ、水協法では新たに資格審査規程が設定されたほか、規制改革会議からは、前年の「第２次答申」に続き、７月には「中間とりまとめ」が発表されるなど、漁業を巡る状況にこれまでにない大きな動きが現れた年でした。

その一方で、昨年は歴史的な取り組みが行われた年でもありました。燃料が経費の多くを占める漁業において、燃油高騰による漁業者の窮状を政府や国民に訴え、理解を求めるため、全漁連などの全国レベルの各団体と県漁連、漁協、漁業者が一体となり、７月に全国一斉休漁を実行、併せて漁業経営危機突破全国漁民大会も開催され、マスコミにも大きく取りあげられました。その成果は、水産庁の補正予算として今日の省燃油事業の実現に繋がったところであり、業界一丸となった取組が大きな実を結びました。

昨今の国内外の経済状況の悪化などにより、漁業を巡る状況はさらに厳しさを増すことが予想されますが、県では今後とも持続的な水産業の発展に向けて、漁場環境の保全はもとより漁場の整備や漁業経営対策に努め、漁業者皆様の暮らしの安定に取り組んでいきたいと思います。さらに、我が国水産業の厳しい現状を消費者や世論に訴え、施策に反映させて行くためには、漁協、漁業者が担う役割を十分に知っていただくとともに、漁協組織自らがしっかりした将来の展望を持つことが重要であると考えます。そのためにも、漁協組織が目指していく針路について、様々な場で議論を深めていただくことを期待しています。

最後に、皆様の操業安全と海の幸に恵まれますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶

兵庫県農政環境部農林水産局
漁港課長
久保田　茂

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、清々しい新春を健やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて昨年10月、行財政全般をゼロベースで見直し、様々なニーズに対して的確に対応できる、持続可能な行財政構造を確立するための「新行革プラン」について、県議会での議決をいただきました。

これは、改革の着実な推進と適切なフォローアップを図るための「行財政構造改革の推進に関する条例」を制定したうえで、平成30年度までの間に取り組むべき具体的な改革内容を定めたもので、これを着実に実行することで、「元気で安全・安心な兵庫づくり」を目指すこととしています。

この中で、国庫補助事業（公共事業）については、平成20年度に前年比88%、21年度にはさらに95%に削減することとなっており、漁港整備も例外ではなく、これまで以上に、効果的、効率的な事業実施に努める必要があると考えています。

これを踏まえて、国が20年度新規で立ち上げた「水産基盤ストックマネージメント事業」に取り組むことといたしました。

近年、防波堤や物揚場などの水産基盤施設は、整備後の老朽化が進むとともに、更新を必要とするものが増加しています。

これらに対して、従来の機能を将来的に維持していくために、施設の維持・管理を体系的に、かつ計画的に取り組むことで、長寿命化を図るとともに、更新コストの平準化や縮減を進めて、総費用（ライフサイクルコスト）の低減につながる対策を、国の補助により実施する事業です。

具体的には、まず施設の老朽化を診断、次に機能を保全する計画の策定、そしてそれに基づく補修・更新工事の実施、を行うものですが、現在、一部の県営漁港を対象として、作業に着手したところですので、会員の皆様方のご理解、ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本年１年の皆様方のご健康とご活躍をお祈りいたしまして、新年のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶

兵庫県立農林水産技術総合センター
水産技術センター 所長
反 田　實

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、３月に発生しました明石海峡の重油流出事故、あるいは燃油価格の高騰など、水産業にとって非常に厳しい年になりましたが、皆様方におかれましては、心機一転、新たな気分で新年をお迎えのことと存じます。

さて、近年、瀬戸内海におけるノリの色落ちや日本海におけるサワラの急激な増加に象徴されるように、漁場環境が大きく変化しており、水産技術センターにおきましては、漁業経営の維持・安定を図るため、漁場環境の変化に対応した漁場環境改善技術、資源管理技術、増養殖技術などの開発に鋭意取り組んでいます。

瀬戸内海では、ノリの色落ち対策として、漁場環境の改善を目指し、アサリ、ウチムラサキの資源増大を図るため、種苗生産技術、生息環境改善技術などの開発に取り組んでいます。また、本年から、JF兵庫漁連及び理化学研究所と共同で、本県独自の特色のあるのり品種を開発するための研究に着手することになっています。

日本海では、資源管理を推進するため、資源動向調査、漁場環境調査などを実施するとともに、ズワイガニ資源のさらなる増大を目指し、効果的な増殖場の造成を行うための調査を行っています。また、消費者に対し、鮮魚や水産加工品の安全性や品質について理解を深めていただくため、品質特性について調査・分析を行い、その情報のデータベース化を進めています。さらに、本年７月末には最新の調査機器を備えた新しい調査船が竣工する予定であり、関係者の皆様方の期待に添えるよう調査研究を推進する所存であります。

今後とも、水産業の発展のため鋭意努力してまいりますので、ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のご健康ご多幸と本年が実り多い年になりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

年頭のご挨拶

全国漁業協同組合連合会
代表理事会長
服 部　郁 弘

新年明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、全国津々浦々でご活躍中の組合員の皆様並びにＪＦグループの皆様に謹んで新年のご挨拶を申しあげます。

国際原油市況の乱高下や、米国の金融危機に端を発する世界経済の急速な悪化など、経済・社会諸情勢が目まぐるしく変化する中、国内においては、食の安全・安心の重要性の問題や燃油・資材類等の価格高騰による経営コストの増加等、組合員・ＪＦグループの経営環境も一層厳しさを増している状況にあります。

特に、漁業・漁船にとって血液ともいうべき燃油価格の未曾有の高騰から、昨年の夏開催した「漁業経営危機突破全国漁民大会」に約4,000人の漁業者が集結し、「漁業を守れ！」という悲痛な声を上げるとともに、わが国漁業の歴史上初めて、全国20万隻の漁船が一斉休漁に踏み切り、浜の窮状を訴えたことは記憶に新しいことです。

我々漁業者の要望を重く受け止めていただき、昨年７月末の燃油高騰水産業緊急対策に続き10月には、総額600億円の大型補正予算が政府より追加措置されました。この緊急対策は、中長期的な漁業経営の体質強化と構造改革推進を目指すものでもあり、安定的な経営を維持していくための将来を見通したセーフティネットとして、有効に活用していくことが重要です。

ＪＦグループは、2006年度からスタートした現行の運動方針に則り様々な活動を行ってきましたが、この実践活動も今年度末で３カ年を経過します。これについて、水産業をめぐる情勢の変化やＪＦの経営改善に向けた取り組みが現在その過程にあること等を踏まえ、基本的には現行方針を2009年度も継続しつつ、重点取組事項のさらなる強化を図るとともに、実践的課題を中心に方針の一部補強を行い、確実に実行していくことを昨年12月の「全国漁連（県漁協）・信漁連会長、漁済組合長合同会議」において決定したところです。

これら以外にも、さまざまな課題が山積しておりますが、諸課題への対処や、施策の実現のためには、ＪＦグループの総力を結集し水産政治力の強化を図ることが不可欠です。

ＪＦ全漁連といたしましては、ＪＦグループの皆様をはじめ社会からも信頼される組織を目指し、役職員一丸となって一層の努力を重ねてまいる所存です。

この１年が、皆様方にとりまして良い年でありますよう、また、操業の安全と一層のご繁栄・ご健勝を祈念申しあげ、新年のご挨拶といたします。

保有契約の維持増大が最重要課題

全国共済水産業協同組合連合会
代表理事会長
吉岡　修一

新年、明けましておめでとうございます。2009年の年頭にあたり、本年が皆様にとって実りある年となることを願いつつ、一言ご挨拶を申し上げます。

さて、わが国経済は、米国のサブプライムローンの破綻が世界の金融市場に混乱を及ぼし、世界規模の株価・債権相場の低迷、円高の進行等、先行きの不透明感が増してきています。また、民間保険業界にあっては、不払問題への対応、顧客基盤・市場自体の縮小等により契約実績、収益がともに落ち込み、また、これまで好調を維持してきた医療保険、年金保険ともに頭打ちの傾向がみられます。

一方、漁業・漁村においては、水産業始まって以来初の全国一斉休漁を決行するとともに漁業経営危機突破全国漁民大会を開催し、漁業経営の危機を訴え、この主張は政府・与党を動かし、政府による予算措置「燃油高騰水産業緊急対策」の実現をみました。また、ＪＦ系統においては水産基本計画、ＪＦグループ新運動方針及び改正水協法の法整備に基づき、ＪＦ合併と経済事業改革の推進、ＪＦ経営改善の実現に取り組んでいます。

このような事業環境のもと、ＪＦ共済（ＪＦ共水連）においては、事業量伸長の停滞・保有契約量の減少傾向にあり、これが様々な経営課題を生じさせてきており、保有契約量の維持・増大が最重要課題となっています。このため本年度は「ふれあい型推進」を第一に解約防止及びＪＦ共済未加入世帯の解消に向け全戸訪問に取り組み、引き続き運動の強化によって所期の加入目標の必達と保有契約量の拡大を期さなければならないと考えています。

さらに、20年度を初年度とする「海といっしょに。浜といっしょに。―ＪＦ共済３か年計画」にもとづきＪＦ事業としての役割を強化するため共済自立ＪＦの構築に取り組むとともに、改正水協法施行に伴う契約者保護の強化、また、共済業務改革・マネジメント改革を推進し共済事業実施基盤の強化に取り組んでまいります。

どうか新しい年におきましても、ＪＦ共済につきまして引き続き皆様の特段のご高配を賜わりますよう、切にお願いを申し上げる次第でございます。最後になりましたが、わが国漁業の明るい未来とＪＦグループがますます発展することを祈念いたしますとともに、本年が皆様とご家族にとって実り多く、健康で幸せな一年となりますよう心から祈念し、新年のご挨拶といたします。

JF兵庫漁連平成20年度第33回通常総会開催

12月8日（月）、兵庫県立水産会館にてJF兵庫漁連の平成20年度第33回通常総会が開催されましたので、その概要を報告します。

井戸兵庫県知事、飯田農林中央金庫大阪支店長臨席のもと、小松会長が「３月５日に明石海峡において発生した貨物船衝突事故では、井戸知事におかれましては、事故解決に向けた多大なるご支援を賜っており、また、農林中央金庫におかれましても、本会の中期経営計画の実践にあたりご協力をいただき、厚く感謝申し上げる。

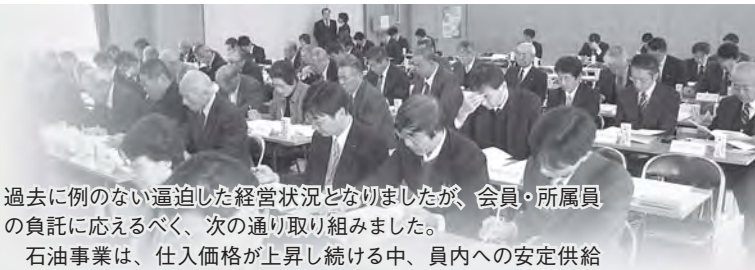
本日の総会で提案いたします指導事業賦課金につきましては、漁業者の皆様に提供する漁業用燃油を少しでも安く供給するための方策の一つであり、当初の提案から比べますと、各会員の賦課金負担額を大幅に減額して再提案申し上げることとしており、会員の皆様のご理解を得たいと考えている。

さらには、のり海藻事業において、本年10月1日に「㈱ひょうごぎょれん販売」を新たに立上げたのも、本県漁業を漁業者の生業として継続していくための必要な事業であると考えている。今後も、依然として厳しい状況が続くことが懸念されるが、我々漁業関係者が一致団結することを切にお願い申し上げる」と挨拶され、次の事項が可決決定されました。

第１号議案　第33期貸借対照表、損益計算書、損失処理案、注記表および事業報告について
第２号議案　第34期の事業計画および収支計画の設定について
第３号議案　指導事業賦課金の徴収について
第４号議案　監事監査細則の一部変更について
第５号議案　第34期内における借入金の最高限度について
第６号議案　第34期内における余裕金の預け入れ銀行について
第７号議案　役員報酬の支給について

事業概要

平成20年度は、水産物の消費下降、漁獲高の減少と魚価の低迷、さらに燃油の高騰、当会事業運営に非常に影響が大きく、



過去に例のない逼迫した経営状況となりましたが、会員・所属員の負託に応えるべく、次の通り取り組みました。

石油事業は、仕入価格が上昇し続ける中、員内への安定供給の為、値上げ時期の延長、値上げ幅の吸収等、燃油高騰抑制に努めました。

のり海藻事業は、明石海峡油流出事故が発生し、過去に例がない大幅な共販金額の減少となりました。兵庫のりの消費拡大および販売強化に取り組むため、子会社「㈱ひょうごぎょれん販売」を平成20年10月1日に設立しました。

資材事業は、原油高騰により製品価格が値上がりする中、取引条件の見直し、新規仕入先の開拓により、仕入れ価格の抑制、スケールメリットを生かした柔軟な価格対応に努めました。

流通加工事業は、事業目的である「浜値の向上・安定」に貢献するために、ＪＦグループと連携した地産地消による食育の推進に向け、魚食普及活動を強力に展開しました。

事業計画

漁業従業者の減少、漁業生産活動の縮小・停滞傾向を直視し、理念に則りつつ次の視点で５ヵ年中期経営計画の達成に向け、本会の組織・事業の根本的改革に取り組みます。

一般管理部門では、会員のための組織作りを目指し、類似業務の統廃合の実施、遊休資産の売却・有効利用等のスリム化に取り組みます。

指導事業部門では、豊かな漁場の再生、水産業燃油高騰対策事業の推進、県下ＪＦ組織強化構想の実現に向け、各浜での意識の醸成を図るための取り組みを行います。

石油購買事業は、セルフ給油推進、仕入交渉技術を高め、継続して低価格の仕入れに努めます。

資材購買部門は、柔軟な価格設定と仕入努力により価格の低減を目指します。特に浜回りの重点地区を設け、積極的な営業活動に取り組みます。

のり海藻事業は、のりの安定生産のために、色落ち対策として、施肥技術の確立、海底耕耘等の取り組みを行い、価格向上のために、「㈱ひょごぎょれん販売」と協力して、積極的なのりの消費拡大、販売促進に努めます。

流通加工事業は、地産地消の増大を目指し、新商品の協同開発・販売企画提案等に取り組み、本県水産物の新しい流通・供給体制の構築を目指します。

魚食普及活動のページ

【郷土料理給食会】
（JF 室津女性部）

地元の子どもたちに魚のおろし方を教えるなど、食育活動の一環として11月13日㈭、たつの市立室津小学校において全校生が参加しての「郷土料理給食会」が開催されました。

当日は５・６年生16名がアカシタの唐揚げや骨せんべいづくりに挑戦。１・２年生は自分たちで育てた大根を酢漬けに、３・４年生は前日に作った蒸しパンを持ち寄って、全校生55人とＰＴＡほか地域住民の方が一緒になっての楽しい昼食会になりました。この行事は、子どもたちに地元特産の魚や野菜を使った料理を伝えていこうと、JF室津女性部をはじめとする龍野地区生活研究グループの恒例行事となっています。

アカシタの唐揚げに挑戦

みんなでおにぎり作りも

【魚をさばいて食べよう】
（JF 室津女性部）

また、11月18日㈫と12月４日㈭にはたつの市立揖保川中学校において１年生総勢139名が参加して、室津漁港で水揚げされた新鮮なアカシタ、コウイカ、セイゴ（スズキ）を使った唐揚げ、刺身、天ぷらづくりが行われました。本年で５年目となるこの行事は、魚食普及に熱心だったJF室津の故田頭参事の提案により始められ、同JF女性部が講師として調理指導をおこなっているものです。最初は恐る恐る魚をさばいていた生徒たちも、揚げたての唐揚げを「味見」（＝つまみ食い）しては「うまっ！」と歓声を上げ、出来上がった料理はあっ！という間になくなってしまいました。

恐る恐るの包丁さばき

唐揚げづくり

平成20年度のり共販、始まる！

本格的な寒波到来とともに、今期のノリ入札会がJF兵庫漁連のり流通センター（加古郡播磨町）において始まりました。12月13日の初市には西播地区から1,160万枚の出品がありましたが、商社筋の腹具合もあり厳しいスタートとなりました。しかし、12月18日の第２回では淡路南浦地区の一部を除いてほぼ全地区から約7,211万枚の出品があり、広い見付場いっぱいに770箱の見本が並べられ、参加商社55社から180人超の買受人は皆真剣な眼差しで見付を行っていました。今漁期は、前年のような色落ちもなく、色があり本等級に柔らかいものが多く出品され、平均単価は昨年をやや上回りました。のり海藻事業本部では、これからは業務筋中心になってくるので、焼色の出る、異物混入のないノリづくりを行う上で、特に早刈り、異物排除（漁場及び加工場とも！）を徹底するよう指導しています。

張り詰めた空気が漂う見付場

NEWS

平成20年度
「ひょうご海の子」作品受賞者決定！！！

ＪＦ兵庫漁連とＪＦ兵庫女性連では、輝く未来を担う小中学生に、海を愛し、美しく豊かな海を守る事の大切さと漁業に親しむ心を育んでもらうために、「ひょうご海の子作品」（絵画・作文）を県下の小中学生を対象に募集し、絵画2,493点作文329点のご応募をいただきました。

11月27日に絵画部門、12月９日に作文部門の最終審査会を行い、受賞作品が決定しましたのでご報告いたします。

【絵画部門】

（敬称略）

賞　　名	学校名	学年	お名前
兵庫県知事賞	神戸市立本山中学校	2	杉山萌
兵庫県教育長賞	神戸市立横尾小学校	2	下岸梓
ＪＦ兵庫漁連会長賞	姫路市立城巽小学校	3	坂元宣篤
ＪＦ兵庫漁連会長賞	神戸市立小束山小学校	6	北村一馬
ＪＦ兵庫漁連会長賞	神戸市立本山中学校	2	鹿島彩
ＪＦ兵庫女性連会長賞	加西市立宇仁小学校	1	櫻井萌奈
ＪＦ兵庫女性連会長賞	淡路市立郡家小学校	6	石上晴陽
ＪＦ兵庫女性連会長賞	神戸市立本山中学校	2	織田桃代
ＪＦ兵庫信漁連会長賞	姫路市立八木小学校	3	山口璃久
ＪＦ兵庫信漁連会長賞	神戸市立本山中学校	2	嵩あかり

・受賞作品は、ハーバーランド駅改札右　展示ケースにて平成20年12月20日～平成21年１月７日まで展示を行いました。

・また、JF兵庫漁連HPでも受賞作品(佳作含む)を紹介いたします。

＜知事賞＞

神戸市立本山中学校 ２年　**杉山　萌**

＜教育長賞＞

神戸市立横尾小学校 ２年　**下岸　梓**

【作文部門】

（敬称略）

賞　　名	学校名	学年	お名前	作品名
兵庫県知事賞	明石市立林小学校	4	浜谷紗里	わたしのお父さんの仕事
兵庫県教育長賞	姫路市立坊勢中学校	3	前田美奈	海からの悲鳴
ＪＦ兵庫漁連会長賞	淡路市立石屋小学校	2	長野利紗	海
ＪＦ兵庫漁連会長賞	南あわじ市立沼島小学校	4	安達優香	海と漁
ＪＦ兵庫漁連会長賞	香美町立香住第一中学校	2	渡邉聖斗	漁業について
ＪＦ兵庫女性連会長賞	洲本市立由良小学校	1	中山亜依	うみのみらい
ＪＦ兵庫女性連会長賞	洲本市立大野小学校	6	宮下友希	由良のすごいおじいちゃん
ＪＦ兵庫女性連会長賞	姫路市立坊勢中学校	2	森くるみ	「海」を守ろう
ＪＦ兵庫信漁連会長賞	明石市立大観小学校	3	網代瑞希	りょうしさんの事
ＪＦ兵庫信漁連会長賞	姫路市立坊勢中学校	3	小林理代	坊勢の海
ＪＦ兵庫信漁連会長賞	明石市立林小学校	4	浜谷紗里	わたしのお父さんの仕事

・２月中旬～下旬に海の子作文集を発刊予定です。

・また、JF兵庫漁連HPに受賞者(佳作含む)と上位2作品を掲載いたします。

平成20年度 兵庫県ＪＦ役職員研修会 開催

12月8日（月）、兵庫県立水産会館大会議室において（財）兵庫県水産振興基金主催の平成20年度兵庫県ＪＦ役職員研修会が開催されました。冒頭、主催者の小松司副理事長、来賓の山村雅雄県水産課長が挨拶に立ち、ともに瀬戸内海環境再生法の動きや里海の概念がキーワードになりつつあることなどに触れ、漁業者自らが真に豊かな海づくりを求めて、活動に参加する重要性を述べられました。

研修の参加者は約100名で、会場からあふれるほど。京都大学フィールド科学教育研究センターの山下洋教授による「海の環境再生に向けて」- 森・里・海の連環を海の民から発信する - と題して講演が行われました。

山下先生は各地の漁業者の森づくりや森林保全活動、沿岸環境の推移等の事例を紹介されながら、「森林や川を守ることは、沿岸環境を維持することに不可欠であり、里海は陸域との関係において形成されることから、陸域とのつながりの改善なしには海の問題は解決しない」と指摘。「人と共存する健全な生態系の再生を図ること、つまり流域までを含めた里海を創生することが漁業資源の再生方策である」と力説されました。

講演される山下洋教授

研修会には100名の参加者が

講演後、ダム放水の方法や効果など、生産者の関心の高い内容についての質問が多く、予定時間を超えて活発な質疑応答が行われました。

平成20年度 兵庫県JF職員研修会 開催

12月15日（月）、兵庫県立水産会館において（財）兵庫県水産振興基金主催の平成20年度兵庫県JF職員研修会が開催されました。

今回は、各JFや系統団体の新任及び中堅職員を主な対象として、漁協運営の基本となる「水産業協同組合法」をテーマに、県水産課主査の眞鍋厚氏を講師に迎えて開かれたもので、県下各ＪＦや系統団体などから50名を超える出席がありました。

冒頭、主催者挨拶として当基金の小松司副理事長が「燃油高騰危機はひとまず回避されたが、規制改革会議の高木提言により、漁業のあり方が厳しく問われている現在、我々漁業関係者は理論武装に励まなければならない」と強調。「海の環境再生についても、漁業者はもっと関心を払うべき」と力説され、今後も業界が直面する課題について研修会をタイムリーに開催し、人材の養成を進めていく決意を述べました。

眞鍋講師による「水産業協同組合法」の講義は、午前・午後の二部に分けられ、午前は漁業組織の沿革や協同組合原則など基本的事項について、午後は平成19、20年の法改正の内容と、組合の憲法たる定款について、改正された事項を重点においた講義となりました。

会場からは条文の解釈など、実務に即した質問が活発に出され、最後に同基金の戸田氏懿専務理事が「これからも重要課題について研修会を開催していくので、組合運営の主戦力である職員の皆さんは、ぜひとも積極的に参加していただきたい」と呼びかけ、閉会しました。

『JF信漁連に強盗！』・・・模擬訓練が実施されました。

ＪＦ信漁連本店において、去る12月18日（木）兵庫署の協力のもとに「模擬強盗訓練」が実施されました。

訓練は、窓口業務終了後に警察官1名が強盗に扮して侵入、カウンター越しに人質を抱え込み刃物を突き付けて金銭を要求するといった内容です。

刃物を振りかざし、職員が人質に！

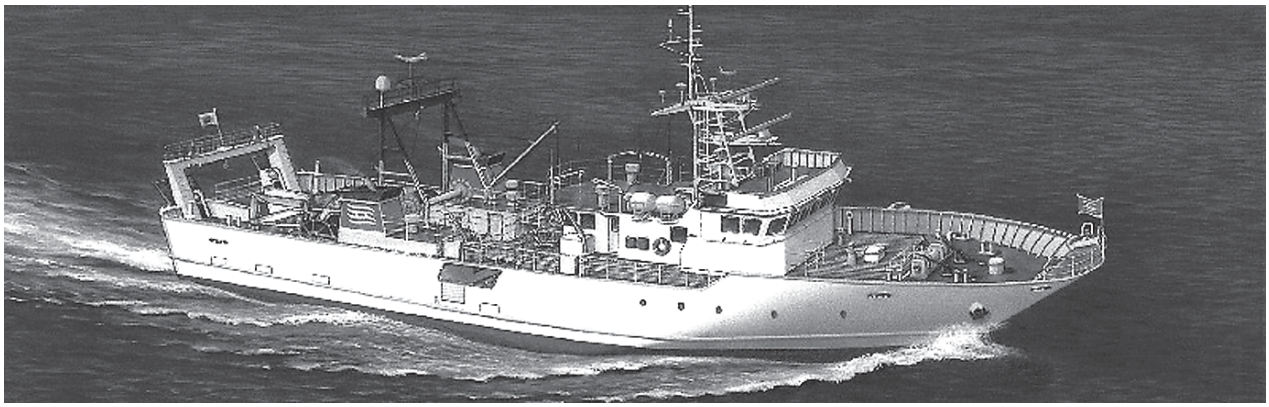
訓練と分かっていても、犯人の威嚇する声には迫力があり、店舗内は殺気立ち職員は緊張した面持ちでした。

非常通報装置で連絡を受けた警察官が駆けつけ、事情聴取に基づき緊急配備を手配したところで訓練は終了しました。

訓練終了後に、兵庫署の地域官より「日頃から防犯意識をもって業務にあたり、来店者には常に注意を払うこと」、「いざという時は身の安全を最優先に考えること」、また「犯人はサングラスやマスクで顔を覆っているケースが多いため顔の特徴はつかみ難い。よって、身長や体格、言葉使い（訛り）が最大の手掛かりになるので、落ち着いて確認することが重要」と講評がありました。

職員からは「今回の訓練を教訓にして、防犯マニュアルに基づく職員それぞれの役割分担を再認識し、万一に備えることの大切さを痛感した」との声が多く聞かれました。

夏にお目見えします！ 新漁業調査船 と 新水産会館



新漁業調査船完成予想図

昨年11月、長崎造船㈱において兵庫県但馬水産技術センターの新しい漁業調査船の起工式が行われ、いよいよ新船建造がスタートしました。

新造船は現在の調査船「たじま」よりひと回り大きく、全長44.5m、総トン数199トン、主機関出力1,323kw（1,800馬力）で、最新鋭の調査機器や漁労設備を装備し、計画最大速力は15ノット、航海速力は13ノットとなっており、定員は23名で、船員以外に10名の研究員や漁業者の乗船が可能とのこと。

また、本誌11月号でお知らせしたとおり、明石市中崎において新水産会館の建設工事が進行中です。４階建て（一部５階）鉄骨造で延床面積は約3,033㎡。JF兵庫漁連、信漁連、内海漁船保険組合など７団体が入居予定で、漁業関係者の利便向上と業務の一層の効率化が図られます。

県の新しい漁業調査船と系統団体の新しい水産会館。いずれも今年の夏に誕生し、漁業の生産向上と経営安定に向けて、フルパワーでの活躍が期待されています。

新水産会館完成予想図

今年もワカメ養殖の体験学習を！（JF南あわじ・わかめ種苗部）

この地域の特産は、何といってもワカメです。JF南あわじのわかめ種苗部（亀井一明部長、10名）では、地元の子どもたちにワカメ養殖を知ってもらおうと、種付けから湯通し、塩蔵加工までを実際に経験してもらう体験学習活動を行っています。

この取り組みは平成５年から始まり、毎年、地元の小学生を対象として11月頃から春先までの間、適宜開催されるもので、15年にわたって地道に続けられているものです。

当地域でのワカメ養殖は昭和40年頃から始まり、昭和55年からの数年間は7,000～8,000トンと、単協では日本一の生産量を記録しましたが、その後、輸入ワカメに押されて価格が暴落し、生産量も約3分の1にまで落ちてしまいました。

「このままではダメだ！」「ワカメ養殖を地域に密着したものにしなければ！」と、危機感を抱いたわかめ部員が率先して取り組んだ活動の一つが、この体験漁業です。

「子どもたちが大人になって島外に出て行っても、ワカメなら、やっぱり丸山のワカメやで！とＰＲしてくれるのを期待しながら、これからも活動を続けます！」と、部員の熱意が伝わってきました。

種糸の差し込み

セット張り作業

兵庫県からのお知らせ

農林水産振興事務所　統合・名称変更のおしらせ

平成 21 年４月より

兵庫県では、行財政改革を進めるため、平成 21 年４月に地方機関を再編いたします。
農林水産振興事務所については、事務所の統合を行うほか、名称などを一部変更します。

神戸地域

○六甲治山事務所を、農林水産振興事務所の内部組織とします。
※六甲治山事務所は、引き続き神戸・阪神地域の治山事業を担当します。

阪神地域

○宝塚農林振興事務所を県三田庁舎に移転し、名称を「阪神農林振興事務所」とします。
○「阪神農林振興事務所」は、阪神地域全域を担当します。
○阪神南県民局農林課は、「阪神農林振興事務所」に統合します。

北播磨地域

○社農林振興事務所の名称を、「加東農林振興事務所」とします。

西播磨地域

○上郡農林水産振興事務所の名称を、「光都（こうと）農林水産振興事務所」とします。
○「光都農林水産振興事務所」は、西播磨地域全域を担当します。
○龍野農林振興事務所は、「光都農林水産振興事務所」に統合します。

但馬地域

○豊岡農林振興事務所は、但馬水産事務所を内部事務所とし、名称を「豊岡農林水産振興事務所」とします。（但馬水産事務所の所在地は香美町のまま）
○和田山農林振興事務所の名称を、「朝来農林振興事務所」とします。

丹波地域

○柏原農林振興事務所の名称を、「丹波農林振興事務所」とします。

地　域	現　　行		平成 21 年４月から
神　戸	神戸農林水産振興事務所	→	神戸農林水産振興事務所
阪神南	（阪神南県民局農林課）	→	阪神農林振興事務所（三田市）
阪神北	宝塚農林振興事務所	→	
東播磨	加古川農林水産振興事務所	→	加古川農林水産振興事務所
北播磨	社農林振興事務所	→	加東農林振興事務所
中播磨	姫路農林水産振興事務所	→	姫路農林水産振興事務所
西播磨	上郡農林水産振興事務所	→	光都（こうと）農林水産振興事務所（上郡町）
	龍野農林振興事務所	→	
但　馬	豊岡農林振興事務所	→	豊岡農林水産振興事務所
	和田山農林振興事務所	→	朝来農林振興事務所
丹　波	柏原農林振興事務所	→	丹波農林振興事務所
淡　路	洲本農林水産振興事務所	→	洲本農林水産振興事務所

農林水産振興事務所の所在地・担当区域（平成21年４月～）

事務所名	所在地	担当区域
神戸農林水産振興事務所	神戸市中央区中山手通６－１－１	神戸市
阪神農林振興事務所　※	三田市天神１－10－14	尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市・三田市・川辺郡
加古川農林水産振興事務所	加古川市加古川町寺家町天神木 97－１	明石市・加古川市・高砂市・加古郡
加東（かとう）農林振興事務所	加東市社町字西柿 1075－２	西脇市・三木市・小野市・加西市・加東市・多可郡
姫路農林水産振興事務所	姫路市北条１－98	姫路市・神崎郡
光都（こうと）農林水産振興事務所	赤穂郡上郡町光都２－25	相生市・赤穂市・たつの市・宍粟市・赤穂郡・佐用郡・揖保郡
豊岡農林水産振興事務所	豊岡市幸町７－11	豊岡市・美方郡
朝来農林振興事務所	朝来市和田山町東谷 213－96	養父市・朝来市
丹波農林振興事務所	丹波市柏原町柏原 668	篠山市・丹波市
洲本農林水産振興事務所	洲本市塩屋２－４－５	洲本市・南あわじ市・淡路市

※尼崎市・西宮市・芦屋市における海面漁業に関する事務は、神戸農林水産振興事務所が担当します。

お知らせ

第12回山田記念賞表彰式及び祝賀会の日程が変更になりました。

拓水12月号（No.626）の４ページでお伝えしました標記表彰式及び祝賀会の日程が
下記のとおり変更となりましたので、改めてお知らせします。

日　時：平成 21 年２月 16 日（月）　11：00 ～
場　所：神戸ポートピアホテル　本館 B1F 「偕楽」

JA　兵庫JCC通信　生協

今、JA・生協では

阪神間の期待の直売所、スマイル阪神 グランドオープン！

11月22日、伊丹市卸売市場内にファーマーズマーケット「スマイル阪神」がオープンしました。店内には、阪神間をはじめとするJA兵庫六甲地域内の新鮮で安全・安心な農産物のほか、花の苗木、ジャムや漬物などの加工品、神戸牛といった豊富な品目が並んでいます。

当日は兵庫県知事からの来賓祝辞のほか、くす玉割りが華やかにおこなわれ、開店前から多くの人で行列ができるほどの大盛況ぶり。店内に用意された商品は次々と売れていき、来店者からは「野菜がどれもきれいでびっくりした」「家が近くなので、これからどんどん通うつもり」といった声が聞かれました。また店外では、伊丹の自然薯のてんぷら、三田の母子茶、猪名川のそばといった、JA兵庫六甲地域内の特産品を使った屋台も並び、来場者は満足そうな笑顔を見せていました。

また、19日におこなわれた内覧会では、来賓祝辞、祝電披露、テープカット、スマイル阪神の命名者への感謝状・記念品の贈呈などがおこなわれました。ファーマーズマーケット「スマイル阪神」は今後も、都市農業の拠点として地産地消を推進するため、消費者に多くの地元産の安全・安心な農産物を提供していく予定です。

くす玉が割られ、スマイル阪神ついにオープン！

たくさんの新鮮な農産物が並んだ店内は大にぎわい

http://www.zenchu-ja.org/

韓国 慶熙大学校生活協同組合の研修団が訪日

大学生協神戸事業連合では、昨年11月19日㈬～23日㈰の4泊5日の日程で、韓国ソウル市内にある名門私立大学の慶熙（キョンヒ）大学校生活協同組合の訪日研修団を受け入れ、大学生協ばかりでなく兵庫県生協連会員のコープこうべ、尼崎医療生協にも協力頂き、兵庫県下の生協の多様な取り組みを紹介する機会となりました。

ソウルと水原（スウォン）にキャンパスを持つ同大学校は学生数約25,000人で、韓国語を学ぶための国際教育院には多くの日本人が語学留学に行っています。この度、韓国の大学生協連合会にあたる「大学生協特別委員会」から日本の全国大学生協連合会へ依頼があり、神戸事業連合が受け入れをすることになりました。生協が地域において果たしている役割の見学を通じて、「生協のパワー」を感じたいという基本テーマをもとに、20日㈭は神戸大・甲南大・関西学院大の各生協を、21日㈮はコープこうべの「協同学苑」を皮切りに「六甲アイランド食品工場」の食品廃棄物リサイクルの取り組みや「食品検査センター」を見学。22日㈯は阪南大生協から尼崎医療生協の「あおぞら会館」、介護老人保健施設「ひだまりの里」を見学し、最後は「人と防災未来センター」で研修を締めくくりました。

「いろいろな方面で生協がバランスよく活躍しており、また地域における生協の存在感が本当に強い。韓国の大学生協は歴史が浅いが、ぜひ自分達が存在感ある生協運動をつくっていきたい。」との感想が印象的でした。

大学4年間で100冊の本を読む『図書マラソン』の取り組みを紹介・神戸大学生協にて

コープこうべ六甲アイランド食品工場の食品廃棄物リサイクルの取り組みを見学

http://www.co-op.or.jp/jccu/

お魚調理 ワンポイントアドバイス

下ごしらえ③ 水洗い 頭割り

調理前の下ごしらえでの最後は水洗いです。
内臓を取った、その奥にある血合いに、包丁の先端部分を使い、傷を付け、血をかき出すように洗います。
この時「ささら」という竹製の道具や、歯ブラシを使い、血が残らないように洗い落とします。内臓壁内側に半端に残った皮なども綺麗に取り除いておきます。
血を徹底して取り除くのは、味や色、雑味が出るなど料理した時に血が悪影響を及ぼすからです。
洗い終えれば、水分を綺麗に拭き取り、下ごしらえ作業の完了です。
ここまでの下ごしらえ作業のことが「水洗い」と言われます。
タイやスズキなど大きな魚の頭部分は捨てるには惜しいほど、いろいろな料理が出来ますので切り割って調理します。
魚の頭を上に向け、包丁を口部分に当て、目側（上側）に向かって真っ直ぐ切り下げ進めます。
出刃包丁は片刃のため、切り進む方向が曲がらないよう意識してください。
頭の上側が切れれば左右に開き、下側も真っ直ぐ半分になる様に切ります。厚みのある出刃包丁を使い叩き切るのが楽ですが、慣れるまでは怪我のないように。基本、包丁は押したり、叩いたりするのではなく、引き切るものですから。

兵庫県漁業協同組合連合会　魚食推進室

旬に想う

写真と文
遊方子

漫才芸

◆江戸時代、正月に家々を訪問して祝福芸を演じたのが三河や尾張の《万歳》である。滑稽な問答や目出度い文句を並べて、新年にふさわしい笑いを誘った。その形態が関西で寄席芸に取り入れられ、大正以降に盛んになる。《漫才》の字に変わるのは昭和九年に、新橋演舞場で催された「特選漫才大会」以降であるというが、大衆娯楽として有名にしたのは横山エンタツ・花菱アチャコのコンビであろう。爆笑できる漫才形式へと発展し名人上手な漫才師が多く誕生する。東京の寄席では、落語以外のジャンルが色物と呼ばれ、古典や新作落語の合間に漫才や手品・物真似などを組み、賑やかで華やかな舞台を見せている。

◆年初のテレビ番組に恒例となった東西寄席では、色物として芸達者が入れ替わり立ち代わり出演する。江戸っ子漫才の《あした順子・ひろし》が面白い。踊りも愉快で笑わせるが、順子が髪飾りを髪の薄いひろしの頭へ乗せる。絶妙なマで笑いは最高潮になる。昔の印象深い漫才では、トップ＼ライトの辛口な政治談義や、千太＼万吉のサラッとした味わいも懐かしく、関西勢では蝶々＼雄二やいとし＼こいし、そしてダイマル＼ラケットが底抜けに痛快だった。関西では主流が漫才で、それ以外の演芸が色物と呼ばれている。

◆以前、明石公園の本丸跡で「菊人形展」が催された。菊を衣装に見立て、古今東西の主人公に着せ、歴史物語の一場面を拵えてあった。その催しのサービス的な見せ物として、仮設舞台での演芸が楽しかった。客席は露天だから雨天時は中止になる。この舞台で「小円・栄子」の漫才を初めて見た。やや古風な芸で、女性上位の喋りが実に面白く、頭を叩かれる小円の表情が印象に残っている。漫才はボケとツッコミのバランスによって、笑いが生み出される。所謂、「掛け合い」の妙であり、言葉のキャッチボールなのである。この言葉遊びの極致ともいえる芸は、ストレス解消には最適のように思う。

◆今、爆笑を呼べる漫才芸の出来る芸人がいるだろうか。お喋りだけで笑わせて呉れる人が少なく、僅かなくすぐりや少しギャグが受けて得意になっているのは、漫才とは言い難い。コント風な軽い芸でなく、お喋りで笑わす本格的な寄席芸を期待するのは無理なのか。かつて大宅壮一氏がテレビ文化を「一億総白痴化」だと表現した。意味不明のワイワイガヤガヤ番組を見ていると、その言葉の意が良く判る気がする。なりふりを構い、羞じらいと慎みを心得ていてこそ、真の文化であろう

「茅葺き屋根」　千草高原にて

大輪田塾だより

「水産物の鮮度保持」と「栽培漁業」

12月9日㈫、兵庫県立水産会館において大輪田塾が開催されました。県農林水産技術総合センター食品流通加工部の森俊郎主任研究員から「ちょっと科学の目で見た 水産物の鮮度保持」と題して90分の講義が、また、㈶ひょうご豊かな海づくり協会の末原裕幸栽培資源課長からは「兵庫県の栽培漁業の概要」についての講義が行われました。

森主任研究員の講義

「鮮度保持」や「栽培漁業」は、ごく身近な話題のはずですが、意外に知らない事柄がたくさんありました。

「安心・安全は、信頼とおいしさがあってこそ」「冷蔵・氷蔵・チルド・パーシャル・氷温・冷凍…」は、どう違うのか等、次々と数値や事例で説明され、よく理解できました。また、栽培漁業センターでは、稚魚の餌づくりやアカウニ・アサリ等の種苗生産に多くの職員が努力されていることなど、業務の実際を紹介されました。

末原課長の講義

どちらも漁業経営に密接なテーマなので、塾生と講師先生の質疑・討論が活発に交わされました。

表紙の言葉

実習船「但州丸」の帰港式

（12月7日、神戸港）

県立香住高校の実習船「但州丸」が遠洋マグロ延縄漁業実習を終え、船籍港である神戸港に帰ってきました。このたびの航海は実習生8名を乗せ、中部太平洋で約40日間の漁業実習を行ってきたものです。厳しい実習に耐え、見るからに精悍になって帰ってきた、凛々しい実習生の皆さんを拝見すると、こちらもいっぺんに元気をもらった気がします。おかえりなさいっ！

発行　財団法人 兵庫県水産振興基金
〒652-0844 神戸市兵庫区中之島2-2-1　TEL 078-681-3789　FAX 078-651-4687